

時代をつくった人たちが去っていく。今年も残すところひと月を切った。毎日のように掲載される死に記事。事件事故によるものもあるが、数行のなかに人の一生がある。日本におけるニュースキャスターの草分け的存在、田英夫元参院議員が亡くなった(11月18日朝刊2面評伝、社会面)。彼はキャスター降板の時、「それではみなさん、また明日」を「それではみなさん、さようなら」と言い換え、その理由を一切語らなかった。

七月には、その田氏や日本のジャーナリズムに少なからず影響を与えた米CBSイブニング・ニュースのアンカーマンだったウォルター・クロンカイト氏が亡くなっていく。「以上が今日のニュースです」とは彼の名せりふだった。それが、アメリカの世界観を見事に表していたと言われている。

一九六〇、七〇年代のジャーナリズムを具現化した存在だった。第二次世界大戦中に特攻隊員であった田氏は、戦争の苦悩を伝え続けるためである。政治家に転身した。クロンカイト氏は「アメリカの良心」とも言われ、ベトナム戦争を懐疑する彼の発言がアメリカの世論を変えた。

今年天皇陛下即位二十周年、ご成婚五十周年であった。本紙のみならず、11月12日前後はそつした記事が多く見受けられた。式典を前にしての記者会見で、陛下は「次第に過去の歴史が忘れられていくのではないかと心配さ

新聞は時代の証言者に



鈴木 雄雅

れ、「昭和の六十有余年は、さまざまな教訓を与えてくれます。過去の歴史的事実を十分に知って、未来に備えることが大切」と語っている。

陛下が即位され、平成という時代が始まった年はまた、ベルリンの壁崩壊や天安門事件が起きた。東西冷戦の終焉期を迎えて世界は新たな道を求めて走り、グローバルゼーションの波に我先と乗った。そのつげが平成のわずか二十年間に現れていることも、危惧されているのではないだろうか。

普天間移設問題(10日社説ほか)に限らず、日本が戦後背負っているひとつに米軍基地問題がある。沖縄本土返還時に暴露された、いわゆる沖縄密約漏洩問題(一九七二年)の真実がいま解き明かされようとしている。当時、密約は存在しないと証言した元外務省局長が、その陳述を法廷の場で翻したからである(12月2日1面)。クロクのものにはクロク、シロでもクロとする権力が四十年近く主張していたことが崩壊していくさまを見逃すことはできないだろう。

新聞を 読んで

陛下はこうもおっしゃっている。「昭和の時代は非常に厳しい状況のもとで始まりました。(中略)平和の大切さを肝に銘じられた昭和天皇にとって、まことに不本意な歴史であったのではないかと察しております(11月12日特集面)。(上智大学教授)

※この批評は最終版を基にしています。